

水資源機構の第2期中期計画が認可されました

水資源機構の第2期中期計画(平成20年度から5ヶ年間の計画)が認可されましたので、その前文を紹介します。

なお、詳細につきましては当機構のHPの業務概要
[<http://www.water.go.jp>]にアクセス下さい。

【第2期中期計画 前文】

気候変動により豪雨の頻度や渇水の影響を受ける地域の面積が増加する可能性が指摘されており、今までにない深刻な事態の発生が懸念される。また、我が国では、降雪量の減少や融雪時期の早期化により水利用に多大な影響を及ぼすことが懸念される。

機構は、このような気候変動等が水管理に及ぼす影響を把握し、降水量や流量の予測技術等の向上に取り組むとともに、施設の的確かつ柔軟な運用・管理を行う。また、既存施設の有効利用のため改築・再編等に向けて取り組み、さらには、水に関する実務型シンクタンクを目指して、ダム・水路技術の維持・向上を図るとともに世界の水問題解決に向けた国際協力にも取り組むものとする。

Q & A コーナー

このコーナーは、専門用語等を分かりやすく説明するコーナーです。参考にしてください。

Q. 水資源機構の中期計画ってなあに？

A. 水資源機構は、平成15年10月に水資源開発公団から独立行政法人水資源機構に変わりました。独立行政法人では、主務大臣(木曾川用水の場合は、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣です。)から指示された中期目標を達成するために、5カ年間における具体的な計画を作成します。この計画のことを「中期計画」と呼んでいます。これらの中期目標や中期計画は、独立行政法人通則法という法律に基づいて、目標の指示、計画の作成・認可という手続きがとられます。

人事異動

(転入者) 宜しくお願いします。

5月1日付 管理課 村松 美樹雄(岩屋ダム)

(内部異動)

5月1日付 総務課 尾堂 文昭(管理課)

氏名の後ろの括弧書きは異動前の勤務先です。

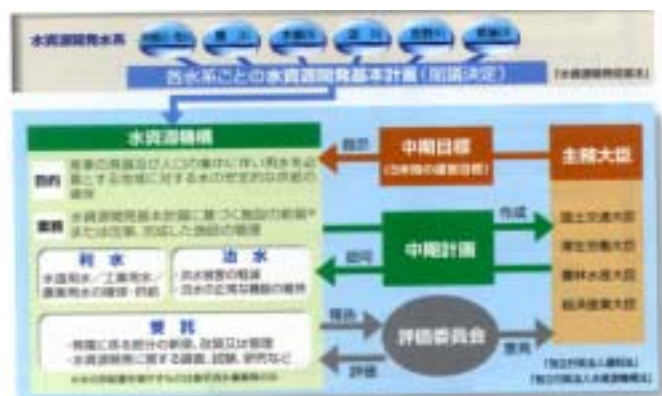
1「サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため」にとる措置

- (1)的確な施設の運用と管理
- (2)リスクへの的確な対応
- (3)計画的で的確な施設の整備
- (4)環境の保全
- (5)技術力の維持・向上と技術支援
- (6)関係機関との連携
- (7)水源地域との連携
- (8)広報・広聴活動の充実
- (9)内部統制の強化と説明責任の向上

2「業務運営の効率化に関する目標を達成するため」にとる措置

- (1)機動的な組織運営
- (2)効率的な業務運営
- (3)事務的経費の削減
- (4)人件費の削減
- (5)コスト構造改革の推進
- (6)事業費の縮減
- (7)適切な資産管理

そして、目標期間が終了してから業務の実績について評価委員会の評価を受け、定期的な業務運営の見直しを行います。水資源機構は、この中期計画に基づいて業務の効率化や業務の質の向上等に取り組んでいます。



中期計画の法手続きの流れ

日米地盤改良（特に液状化対策）に関するワークショップに参加（木曾川用水総合管理所 副所長 加藤 智雄）

5月13日から1週間、アメリカのカリフォルニア州サクラメントで開催された「日米地盤改良に関するワークショップ」に、岐阜大学からの要請により参加してきました。

木曾川用水下流部の濃尾第二地区では、近い将来の発生が懸念されている東海・東南海地震時に液状化による被害が想定されており、その対策検討について発表を行いました。発表後のディスカッションでは、どの課題についても共通してコストに関する議論がなされました。

カリフォルニア州には、サンフランシスコやロサンゼルスなどの大都市がありますが、サクラメントが州都になっており、州知事のシュワちゃんもサクラメントに居ます。



日米地盤改良に関するワークショップに参加した加藤副所長

ワークショップ終了後は、大規模な耐震対策を行っているゴールデンゲートブリッジ(サンフランシスコ)とソマナコースト国道(ナパ)の地滑り対策の見学を行いました。

最後にアメリカの車事情について驚いたことを3つ。携帯電話しながらの運転がOK、飲酒運転もOK(但し、州によって違います)、走っている車の約半分が日本車、そのうち約6割くらいがトヨタで、日本車がすっかりアメリカに馴染んでいるようでした。現地の人いわく「アメリカだって性能のいい車作ってるよ、TOYOTAでしょ、それから...」!?



ゴールデンゲートブリッジ (サンフランシスコ)

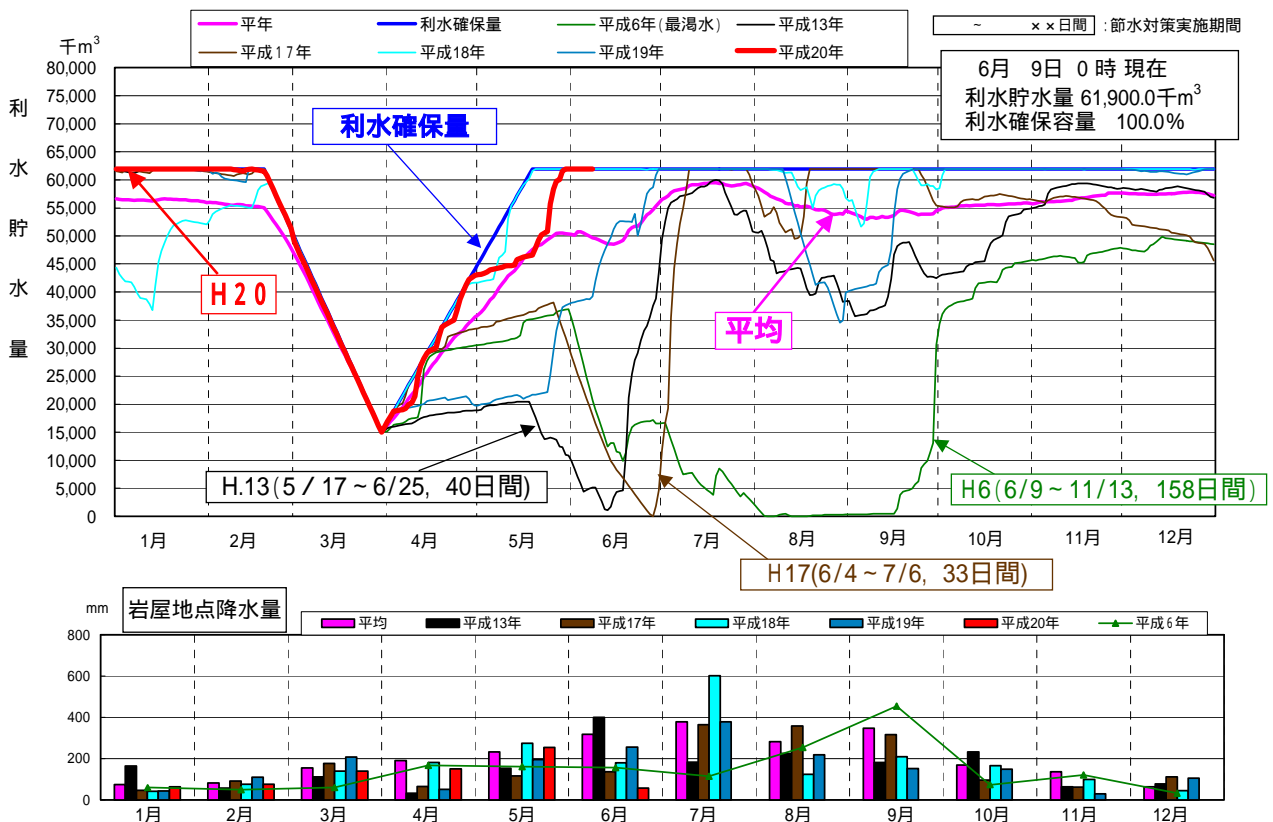


ソマナコースト国道(ナパ)の地滑り対策

岩屋ダムの貯水状況について

木曾川用水の水源である岩屋ダムは、降雨に恵まれたことから、1月より、ほぼ満水状態で推移してきました。2月20日から5月20日の間は、岩屋ダム利水貯水量のVカットの期間で3月31日(15,000千m³)からの利水貯水量の回復は5月に入ってから、やや鈍化していましたが、5月下旬の降雨により利水貯水量に対して5月30日には満水(61,900千m³)となり、現在(6月11日時点)も満水で推移しています。

平成20年6月11日 0時現在



第13回 木曾三川交流レガッタ

毎年恒例となっている木曾三川交流レガッタが5月25日(日)に開催され、木曾川用水総合管理所からは壮年男子の部に『木曾川用水1号』、混合の部に『木曾川用水2号』の2艇が参加しました。さらに今年は、利水者である海部土地改良区が『水土里ネットあま』として壮年男子の部に初参加されました。

先に『木曾川用水2号』の予選が開始。木曾川用水でも1・2位を争う筋肉を搭載したクルーと女性陣がコックスの声に合わせリズム良く漕ぎ続け、2位で予選を通過して準決勝へと進み、疲れを知らない筋肉クルーは準決勝でもフル稼働して無難に決勝へと進みました。

次に『木曾川用水1号』の予選が開始。各々練習はしたものの全員揃った練習が出来なかったクルー達。スタートに向かう途中、誰かが言った「ロケットスタート」。練習無しで出来るはずもなく、誰も合わないバラバラスタート炸裂。しかし何とか体勢を立て直し、3位で予選を通過し決勝へ駒を進めました。



混合の部
「木曾川用水2号」



壮年男子の部
「木曾川用水1号」



壮年男子の部
「水土里ネットあま」



集合写真

続いて『水土里ネットあま』の予選が開始。レガッタ初挑戦のクルーでしたが、練習を重ねて全員のリズムをバッチリ合わせてきました。しかしスタート位置で思わぬ誤算。「このレースは“クイックスタート”で行います」との放送に、「クイックスタート!?…って何?」

隣のクルーに聞いている間にレースはスタート。完全に出遅れてしまい予選敗退してしまいましたが、敗者復活戦から見事決勝へ進みました。

午後になって少し風が吹きはじめの中、『木曾川用水2号』の決勝が始まりました。予選を危なげなく通過したクルーでしたが、何とスタートが合わずに大ブレイク…それでも必死に漕ぎ続けましたが、舞台は決勝戦で周りも強者。健闘及ばず5位でゴールしました。

続いて『木曾川用水1号』と『水土里ネットあま』の決勝戦が始まりました。同じ決勝の舞台へと勝ち進み、しかもレーンは隣同士。お互いに燃えない訳がありません。合図と同時に両者とも好スタート! 激しいデッドヒートのなか経験で勝る『木曾川用水1号』が一歩リード。そのままリードを保ち4位でゴールしました。あと少し届かず『水土里ネットあま』は5位でゴールしましたが、初参加でこの成績とは恐れ入りました。

残念ながらどの種別でも入賞することは出来ませんでした。新しい形での交流も生まれ、楽しく1日を過ごすことが出来ました。

木曾川漁業協同組合が河川功労者表彰を受賞

木曾川漁業協同組合は、木曾川用水総合管理所が管理する木曾川大堰において、河川の自然保護及び環境学習活動に携わり、河川愛護の思想普及及びその実践に努めたことが評価され、平成20年5月に、社団法人日本河川協会から河川功労者表彰を受賞されました。

同組合はこれまで愛知県や水資源機構と連携して、木曾川大堰近隣の小学校に対して、毎年、川マス稚魚の放流体験学習会や成魚となったサツキマスの観察や料理試食会等を行うなど、河川の総合的な自然保護・環境学習に取り組まれています。



受賞された木曾川漁業協同組合

インタビューシリーズ その4 (長島町土地改良区)

金森 義文 氏

木曾川用水事業に関係の深い方へ訪問しインタビュー取材を行っています。今回のインタビュー取材は、平成20年4月1日に長島町土地改良区理事長に就任されました金森義文様にお話を伺いました。

Q1 木曾川用水事業は、昭和52年4月の暫定管理、昭和58年4月の本管理より通水を開始していますが、水の使用状況について、通水開始前と後を比較してどのように思われていますか？

A1 私が記憶している学生の頃は、長島町には大小たくさん内川があり、どの家にも舟がありました。その舟で田から田へ移動をしていました。昭和32年頃から土地をだし、川を埋め区画整理がはじまりました。昭和43年頃には、小さな田が大きく変わりました。

私が幼少の時に、父が早くに亡くなり、そのせいかわかりませんが、農地の分配で家から遠い所に決まりました。私以外の人は、家から近い所に農地の配分決めがなされました。当時は、父が居なかったせいではないぶん悔しい思いをさせられました。しかし、今となっては、機械化が進み農地までは遠いがまとまった広い土地で作物を作ることができます。逆に家に近い農地は、面積が狭く生産性が悪い所になりました。

そして、昭和34年には伊勢湾台風という大きな災害を受けました。その後は、U字側溝が完成し、長良川の水が送水されるようになりましたが、入り口に近い田には早く水がくるのですが、田面の高低もあり奥の田にいくに従って水が届かず苦労した人もいます。

それが木曾川総合用水団体管かんがい用水事業が完成し、農業者にとって大切な農水がパイプラインにて配水されるようになりました。こんなに便利になっていいものかと思いました。今では、24時間送水が実施されています。また、木曾川のきれいな水がくるようになってからは、おいしいお米が多く収穫できるようになり、水のありがたみを感じています。

Q2 昔の苦労話について、水に対する事や事業設立の事を聞かせてください。

A2 長島町は木曾三川に囲まれた地域であり、従来は河川の豊富な水をかんがい用水として依存しておりましたが、昭和40年代に入りますと地盤沈下が進み海水が遡上し、かんがい用水の安定取水が困難となる事態になり、地下水に依存し、農業用水を確保する地域もありました(伊勢島地区)。かんがい用水施設として整備したコンクリート用水路は不等沈下により漏水が著しくなり、その後の濃尾平野の地下水規制により代替水源を求めることになりました。その後、昭和58年木曾川総合用水事業が完成し、農業用水をパイプライン化したことにより安定給水が図られました。



金森 義文 氏 (66才)
プロフィール
(現)長島町土地改良区理事長
桑名市農業委員

今は農業用水施設の維持管理が土地改良区の本業務ですが、伊勢湾台風の被害を受けてからの復旧事業(土地区画整理事業)を始めとする昭和40年代初期から木曾川総合用水事業が完成するまでの約20年間には幾多の補助事業を取り入れ、地元はもとより当時の土地改良関係役員様には毎日大変忙しい日々を過ごし、そのご苦労は計り知れないことと思います。先人の方々のおかげで、安定した農水確保することが出来、優良な農地が整備されました。

Q3 管理開始から24年経過しましたが農産物の生産作物は、変化しましたか？

A3 木曾川総合用水事業で農業用水の安定給水が図られたことにより、基幹作物のおいしい米作りは基より、良質な農業用水により完熟トマト『桃太郎』や水稻稈作として『なばな』の農産物の栽培が、全国に先駆けての農協の営農指導により始まりました。

Q4 土地改良区等の業務の役職を歴任されていますが苦労話の体験や経験を聞かせて下さい。

A4 水の使い方については、大切な水を無駄に流さないように注意を呼びかけています。それでも聞かない場合は、栓を閉める場合もあります。排水機場の操作員は、桑名市から委託を受けた者(4人)がポンプ操作を毎日30分かけて行っています。これは桑名市との合併する時の約束であります。また、田圃の畦半(あぜ道)は、その使用者個人で整備しています。排水路が植木を剪定したゴミ等で詰まる場合があり、剪定したゴミ等を捨てないよう指導しています。

Q5 今後の水資源機構に望むことがあれば聞かせて下さい。

A5 木曾川用水施設(パイプライン)による農業用水の安定供給を望みます。同事業が完成して30年近くなり、施設の老朽化が心配されます。長島町全域の農地がパイプライン化されていますので、今後も施設の適切な維持管理と農業用水の安定供給をお願いします。

インタビュー - にご協力頂き、誠にありがとうございました。



写真は、長島町土地改良区から紹介された、ハウストマトです。栽培しているトマトは、「感激」という病気に強い品種です。

編集部
発行

独立行政法人水資源機構
木曾川用水総合管理所

〒495-0036 愛知県稲沢市祖父江町馬飼寺東26-1
TEL(0587)97-3710 FAX(0587)97-1482

最新情報はこちらへ

ホームページ <http://www.water.go.jp/chubu/kisogawa>
又は【うるおい木曾】で検索してください。



美濃加茂管理所 〒505-0021 岐阜県美濃加茂市森山町4-9-20
TEL(0574)25-2121 FAX(0574)28-3354

弥富管理所 〒498-0014 愛知県弥富市五明3-15
TEL(0576)65-1650 FAX(0567)65-0445

長良導水管理所 〒511-1143 三重県桑名市長島町西外面1026
TEL(0594)42-5671 FAX(0594)42-5674

施設見学をしませんか。事業の説明にも伺います。希望される方はお気軽に連絡して下さい。